

地震対策における私学の現況と問題点

平成18年12月19日

八雲学園中学・高等学校

近藤 彰 郎

東京私立中学高等学校協会（419校）が主体となる地震対策事業

1. 災害時における臨時休校等のラジオ放送

毎年4月の理事会を通じて、各学校に周知しているもので、台風などの自然災害により私立中高が臨時休校や登校時間を変更する場合、ニッポン放送によって随時放送してもらえる体制であります。

これは通年で実施されております。

2. 安否情報の放送

地震発生の際、生徒の安否を放送してもらえるものです。各学校が、生徒の安否等の情報を、あらかじめ決めている電話連絡網を用いてニッポン放送に伝えると放送してもらえます。なお、毎年9月に電話連絡訓練を行い、非常時に備えております。

また、非常時は一般加入電話が使用できない可能性が高いため、災害時優先電話を用いております。

年1回、防災の日を利用し、生番組中に模擬放送を行っており、各家庭への周知も図っております。

3. 東海地震警戒宣言の伝達

東海地震等警戒宣言が発せられた際、私学部から連絡を受けた協会は、各支部長校に電話でその旨を伝えます。支部長校は支部で決めている連絡網を使って各学校に伝えます。

なお、こちらも9月に災害時優先電話を使い電話連絡訓練を行っております。

4. 防災アンケートの実施

防災につきましては、学校ごとに備えの方法や考え方等が異なっておりますので、協会として現状を把握するとともに、各学校に対しては他校の取り組みを知っていただくことを目的として、毎年防災についてのアンケートを実施しております。

現場での対策(八雲学園)

1. 日頃の訓練

集団伝達 全校集会——地震を含めた災害時における対応についての話。週4回
学年集会——災害時における心構え等についての話。年6回
ホームルーム—クラス単位での確認。毎日放課後

集団訓練 全校集会——教室からの避難訓練、整列、人員点呼 週4回

合宿研修——整列、人員点呼、集合解散、動作機敏にするため。
伝達の把握。中学・高校 各年1回(2泊3日)

登校路指導——生徒、先生がグループになって毎日駅から学校まで立って
指導。

2. 下校訓練

全校集会の体形に校庭または体育館に集合。人員点呼の後、駅からの帰宅組、バスを乗っての帰宅組、徒歩による帰宅組、学校待機組とに分けて下校訓練をしている。時間差をつけて下校させるとともに、先生方が通学路と駅の様子を携帯電話及びトランシーバーによって情報交換しながら安全の確認をしている。50名の専任教職員全て携帯電話及びトランシーバーを携帯している。 年1回

3. 問題点

学校に留めた方が良いのではと考えている。

帰宅途中の事が心配、連絡が取れなくなってしまう。学校に於ける先生、生徒の電話連絡網は整備されているが、災害時優先電話はない。個人情報保護法により電話連絡網に入らない人もいる。

駅の狭さ、交通事情等の変化により、他の事故に巻き込まれる可能性が大きい。

滞留の準備必要。

早急に建物の耐震化を進めるべき。そのために公私の分け隔てなく、国策として費用を出す必要があると考える。

非常食等のストックハウスでの備蓄も大事だが、どんな状況になるか分からないので分散確保する必要がある。クラス単位での非常食、飲料水の確保、本人に常日頃から最低限の非常食等を常備させる等の指導も必要。(乾パン、飲料ボトル、常備薬等)。

区とは避難場所の提携はしていない。状況を想定する事が難しいので、生徒が学校にいる状態での準備を優先させて考えている。